

## 今こそ老健での作業療法 —地域包括ケア時代に OT の可能性を広げよう

### 特集にあたって

介護老人保健施設（老健）は全国に 3,998 施設が開設され、入所定員は 37 万人を超える状況にあります<sup>1)</sup>。通所リハビリテーション（デイケア）や短期入所療養介護（医療型ショートステイ）事業を展開し、在宅生活を支えてきました。昨今では訪問リハビリテーションを併設する老健も増え、地域の高齢者リハセンターとしての機能が期待されています。

介護予防・認知症リハ・ターミナル期の生活支援の最前線です。チームリハ・チームケアを紡いで発展してきました。そして今こそ老健は最前線で困難な課題に向き合っています。日本作業療法士協会が推進する MTDLP（Management Tool for Daily Life Performance）“ひとは作業で健康になれる”。この研究モデルが施策モデルとなり、今現場で実践モデル“生活行為向上リハビリテーション”として展開されようとしています。これは、作業療法自体のリハビリテーション（再び、ぴったりしたものになること）にも思える課題です。困難ですが、わくわくするミッションです。“今こそ老健での作業療法！ 老健から作業療法の可能性を広げたい”

多職種協働といわれますが、他の職種との協働の前に同職種内協働！ OT の仲間との連携は大切だと感じています。情報交換をして、本音で語り合って、知識や技術を共有していくためにも、本誌は重要なツールだと思うのです。

一人でも多くの老健 OT の仲間たちに、この特集で紹介された意見や取り組みに出逢ってほしい。そして力量が増しますように！ 次のアクションへのきっかけになりますように！

医療と介護の連携……病院の OT の仲間へもメッセージが満載の特集です。

（浅野有子）

### 文献

- 1) 協会の活動. 老健 26(2) : 66, 2015

### 企画担当

浅野有子（介護老人保健施設 涼風苑，認定作業療法士）

澤 俊二（金城大学，作業療法士）

竹内さをり（甲南女子大学，作業療法士）